

研究だより

寒河江市立三泉小学校
令和7年7月29日（火）

NO.1

第6学年「分数でわる計算を考えよう」(授業者:鈴木 悠)

◎成果

- ・グループを作ると友達と向かい合って距離が近くなり、必要に応じて対話をしやすい環境を作ることができた。
- ・「自分一人で」「友達と一緒に」「教師と一緒に」から必要に応じて学習形態を自分で決めて学習を進めることで、意欲的に最後まで課題を解き切ろうとする姿が見られた。
- ・学びのプランを児童と共有することで、単元の中で自分たちは今どこまで学びを進めたのかがわかり、見通しを持ちながら学習に取り組むことができた。

○課題

- ・送られてきた友達の考えをそのままノートに写す児童が見られた。ただ書き写すのではなく、わからないところは友達に聴いて、理解しながらノートに書くことの意識付けをしていきたい。
- ・数直線のかき方を示したお助けシートをオクリンクで送っていたため、それを見ながら黙々と解き進め、対話が起きにくい環境となった。子どもたちの対話にゆだねてもよかった。



第4学年「小数のしくみ」(授業者:和泉景子先生)

◎成果

- ・学習方法を選択して取り組むことで、一人で考えるだけでなく、いろいろな人と一緒に考えられるよさがあった。友達と一緒にすることで解決へ向かえる児童もいた。
- ・数学的な見方・考え方を意識して授業づくりをすること。もとにする数や整数と同じようにという見方を働かせると、既習事項を使いながら学習がつながっていった。
- ・既習事項をもとに新しい問題に取り組むことができた。教科書やノート、掲示を振り返りながら、学習したことを使って解けないかなという見方を活用できていた。



○課題

- ・タブレットで他者参照したかったが、上手く使いこなせなかった。「書けたら写真を撮って送る」としてしたが、できたものを見るのではなく、考えている過程を見られるようにしたい。
- ・「友達と一緒に」の学習方法について、あまり思うような対話が見られなかった。「わからない」と思ったときにすぐ聞く対話がもっと活発になるように、ペアやグループなどの形態を変えたり、わからないをもっと価値づけたりして、聞いていい雰囲気づくりをしていきたい。
- ・問題に取り組むにあたって、見通しをつけたいと思ったが、既習した中から使えそうなものを示しすぎてしまい、その中から考えなければならない流れを作ってしまった。はじめの確認を必要な部分にしぼり、自分たちで考える（悩む）時間を確保したい。

学びをつなげよう！

学びの多い第1回授業研究会でした。そこでの学びを、これからの日々の授業や今後の授業研究会につなげていければと思います。今回の多くの学びの中でも、特に以下の点については是非前向きに取り組んでいければと思います。そして、「こんなこと試してみました。」「どんな機能を使うとできそうですか。」など、普段の先生方同士の会話でも、情報を共有できればと思います。

○タブレットの積極的な活用

①説明のための道具

- ・自分の考えをメモ/図式化

②情報の共有

- ・タブレットを見ながらの対話

令和7年6月30日(月) 第1回授業研究会 事後研究会 三浦登志一教授の講和より

①一人でじっくり思考するとき

- ・教師から全員に送られてきた課題に対し、自分の考えをタブレット上に書いていく。(位取り板や数直線、線分図等も使いながら)
- ・この使い方は、これまでの授業で言えばノートのようなもの。
- ・端末の画像をスクリーンに映しだすことができ、スムーズに発表もできる。

②学び合うとき

- ・2人で1台の端末を見合い、互いの考えを聴き合って学ぶ。
- ・2人でそれぞれの端末を見せ合って、互いの考えを聴き合って学ぶ。
- ・グループでそれぞれの考えを送り合い、考えを伝え合って学ぶ。

③仲間の考えを知るとき

- ・子どもの端末の画面一面にクラス全員の考えを写しだす。
⇒・関心をもった考えを拡大して見ることができる。
 - ・自分と仲間の考えや仲間同士の考えを比べることができる。
- ・自分の考えを書いたノートを撮影して送り合う。
⇒・互いの考えを比較して考えることができる。
⇒自分から対話してみたい相手を探し出して思考を深めることができるかもしれない。